現職教員としての「教職実践演習」における取り組み —教育の現場を学生とともに考える—

萩野 朝行

1. はじめに

教職実践演習は「教職課程履修の総仕上げとして、自己の教員としての適性や特徴を対象化すること、および今後の教員としての課題を認識すること」を目標として設定されている科目である。本稿は、筆者が現職の学校教員として、どのような授業実践を行ってきたかを提示することを目的とする。

2. 授業計画

この授業は「クラス合同授業(以下、合同)」と「クラス別授業(以下、クラス別)」で構成される。2014年度は次のように実施した。

合同1「オリエンテーション、教育実習事後指導」

クラス別1「クラス別授業のオリエンテーション、グループワークの実践例①」

クラス別2「グループワークの実践例②、生徒指導のケーススタディ①」

クラス別3「学級通信の作成①」

クラス別4「生徒指導のケーススタディ②、学級通信の作成②」

クラス別5「学校の現場観察」

クラス別6「グループワークの実践例③、学級通信の作成③」

合同2「中高管理職者による講話」

クラス別7「学級通信の相互評価」

合同3「地域教育委員会教育長による講話」

クラス別8「まとめ」

本稿では筆者が展開したクラス別授業について、「グループワークの実践例」、「生徒指導のケーススタディ」、「学校の現場観察」、「学級通信の作成および相互評価」に分けて報告する。

3. グループワークの実践例

この授業の受講生は機械的に振り分けられるため、初対面の者とそうでない者が存在する。その面では学校現場における学級と同じ環境にあるといえる。担任としてクラス経営をする際の重要課題の1つが「人間関係作り」であることを説明し、そのために有効なグループワークを授業内で実践した。

実践1「バースデーチェーン」

①参加者全員で大きな輪を作らせる。②これ以降、しゃべってはいけないと指示する。③声を出さずに誕生日順に並び変わるように指示する。このとき、教師の右が1月1日、左が12月31日になるよう補足する。④並び変わったら確認、必要があれば修正する。

実践2「テーマトーク」

①誕生日順を利用して5～6人のグループを作る。②「自分の誕生日の好きなところ」をテーマに話すよう指示する。必ず全員が話をすること、終わったら別の話をしているよう補足する。③教室内に6～8枚の色紙を貼る。④教室内に貼られている色紙を見て、自分が好きな色を1つ選んでそこに移動させる。⑤グループの人数が多すぎたら2つに分ける、少なすぎたら2～3のグループを合わせるなどして人数を調整する。⑥「この色が好きな理由」をテーマに話すよう指示する。補足事項は②と同じ。⑦以降、「食べもの」「教科」などで同じワークを行う。

実践3「整列順の作成」

①参加者全員を一列に整列させる。②自分たちで相談して背の順になるよう指示する。③並び変わったら確認、必要があれば修正する。※アレンジとして、事前に教師役を学生から選び、具体的で分かりやすい指示を心がけながら背の順を作らせるのもよい。

実践4「他己紹介」

①背の順を利用して2～3人のグループを作る。このとき、男女の偏りを考慮する場合もある。②お互い自己紹介を1分ずつ行うよう指示する。3人組は順番を決めるように補足する。③指示者が時間を計り自己紹介を開始させる。④他の組と一緒にになり、5～6人組を作らせる。⑤一緒になった他の組の人に、自分のパートナーを紹介するよう指示する。紹介されているパートナーは、間違った情報があれば、話が終わったあとに肯定的に訂正するよう補足する。

⑥最初の2～3人組はそのまま、一緒になる組を変えて、⑤と同じことをするよう指示する。

実践5「漢字の創造」

①A4縦半分の大きさの画用紙を準備し、上から10センチのところを線を引き、「上の部分」と「下の部分」に分ける。②今年の自分の目標を考えて、下の部分に文章で記入させる。③下の部分に書いた目標を、世の中に存在しないオリジナルの漢字1文字で表現させ、上の部分に記入させる。④上の部分と下の部分をはさみで切り離す。⑤上の部分を大きなテーブルの上に並べ、学生たちがその周囲に広がる。下の部分を教師が読み上げ、「かるた遊び」を行う。⑥このゲームの目的が「クラスの仲間の目標を理解すること」であることを伝える。

学生の感想

・具体的な活動を通して、その意味を体感させていただけたのはとても素晴らしい授業スタイルであるように思いました。意欲的に取り組んで、各セクションで学ぶことはしっかり学んで身につけていきたいです。

・このような機会は、初年度の新しいクラスにおいて、うまくなじめないような子どもでも、共通点を見つけることができるし、関わりをつくりやすいと感じた。

・自由に話していいと言われると何を話せばいいかわからず困ってしまいますが、テーマを決められていることで、とても話しやすかったです。

・4～6人の集団から導入することで、のちにクラス全体の交流を深める良いきっかけになる

と感じた。

・約束事で相手の話をしっかり聞くというのはすごい大事なことだと感じました。

・かるた形式にすることで人はわからないがクラスの人が考えていることが共有できて、とても良い方法だと思った。ぜひ、自分が教師になったとき、この経験を活かしたい。

・このカルタが終わった後にクラスの掲示板に、漢字と文章と名前を掲示したら、みんながそれぞれの考えを知るいいきっかけになると感じました。

・このようなモチベーションアップのためのアクティビティーは、様々な企業でも有効な気がします。

・今日のゲームをさっそく誰かに試したくなったので、まずは家族に書いてもらおうと思います。

4. 生徒指導のケーススタディ

教員として生徒に関わるのは、教科指導だけではなく様々な場面が考えられる。学級担任として生徒にアドバイスや指導をする場面を具体的に提示し、5～6人のグループに分かれて話し合いを実施、その内容を全体で共有する授業を行った。

実践1「学習方法のアドバイス」

次のケースを学生たちに説明し、話し合いを行わせた。

中学生になり教科学習が本格化する中で、思うように学習に取り組めない生徒がいる。テスト後の面談などをして、「勉強方法が分から

ない」「やり方を工夫したい」といった表現が出てくることが多い。では学習方法を工夫するとは、具体的にどういうことを指すのか。全体的に学習が苦手で、どうしたらよいか分からない生徒に対してのアドバイスを考えてみなさい。

実践2「問題行動に対する注意、指導」

資料として筆者が勤務している学校の「学校生活の心得」を配布した上で、次のケースを学生たちに説明し、話し合いを行わせた。

筆者が勤務している学校には校則と呼ばれるものはないが、学校生活を送る上でのきまり＝「学校生活の心得」がある。学校生活に必要なものは校内に持ち込まないことになっているが、中にはもってきてしまう生徒もいる。例えばこんな出来事がおきたとする。(具体的な詳細は省略。2人の生徒が学校生活に必要なものを持ち込んだ。事情を聞くために2人を呼んだところ、1人は正しいことを話し、1人が事実と違うことを話した。最終的には後者がごまかしきれずに泣き出した…というケース)。このとき、2人に対してどのような対応をするか、考えてみなさい。

学生の感想

・多くの班の意見を聞くことで学習意欲・苦手意識の改善するにはどうしたらよいか知識を深めることができた。非常に自分のためにも勉強になった。

・より多くの感覚を使って学習することやその日のことは後回しにしないという方法は、科学的に記憶に定着しやすいと証明されているし、

実体験でも感じる良い方法だと思う。

・成功体験をちゃんとほめてあげるということは、勉強面に限らず人と接していく上でとても大切なことだと思います。

・「音読をしなくなったら、勉強は終わり」ということがとても印象に残った。人は声を聞いて手を動かすことが記憶に残るということを聞いたことを思い出しました。

・今、バイト先で後輩の指導をしているが、できたことはきちんとほめようと思います。

・勉強方法のアドバイスというのは、かなり難しいと思いました。私自身、勉強方法を見つけるのが得意な方だったので、なかなかよいアドバイスが考えつかないです。

・生徒に合わせて方法を考えるのが大切だと感じました。

・実際に教師になるとこういった指導も必要で、このときの言葉は生徒に大きな影響を与えてしまうと思うので、間違っはいけない難しいことだと思います。

・ケーススタディをする際、それぞれの関係性が明確でない場合、もしくはわからないときがあると思うので、注意すべきだと思います。

・人間関係を崩さず、今後も生活していけるような対応が大切だと思った。

5. 学校の現場観察

教育実習では教材研究と授業実践が主となり、日頃の学校や生徒のようすを観察する機会が少なくなるケースがある。筆者が勤務している立教池袋中学校高等学校に訪問し、放課後の学校や生徒のようすを観察した。ちょうど文化

祭直前の時期にあたっていて、生徒たちが活発に動いていたため、学生たちにとっても懐かしかったようである。また、生徒会役員の高校生、閉会式で演奏を行うバンドの高校生、部活動中の生徒と交流する時間を設けた。その中で不登校経験者が語った経験談には、とくに関心を持って聞き入っていたようである。現場観察終了後、学生たちに感想を発表させた。

学生の感想

・チームで勝つ楽しさや目標をしっかりと伝えられるような先生になりたいです。

・顧問の先生がしっかりと目標を明確にして指導していると、普段の生徒たちの部活のようすもはっきりすることを肌で実感しました。

・バンドの活動を見たとき、生徒一人一人の良さのあり方を感じました。

・部活練習や文化祭に向けての準備を仲間とともにに行っている生徒の姿は、とてもいきいきとしているように映りました。その裏では、ルールなど考えなくてはならないことが多くあるのだということも分かりました。

・自分のやりたいことを見つけてから、他のことについても積極的になったり、もともとマスクをしていない人と話せなかったり外に出られなかった子が、堂々と人前に出て話せるようになっていく姿を見たとき、教師っていいな、と思いました。

6. 学級通信の作成、および相互評価

生徒や保護者との関係をつくったり、担任の思いや必要な連絡事項を伝えるための手段のひ

とつに「学級通信」がある。学生たちに以下の条件を示し、学級通信を作成させた。

サイズ B4またはA4で一枚
色 印刷して配るという前提から、黒一色が基本
様式 手書き、パソコンどちらでも可
その他 中学1年生または高校1年生の担任として発行する、第一号の学級通信とする
配布資料 学校生活の心得、一学期の予定表、時間割

完成した学級通信を拡大コピーして教室内に掲示し、作成者に作成の意図や工夫した点を発表させた。その上で自分がよいと思う学級通信を3つ選び、どのようなところがよいか、理由を用紙に記入させた。

学生の感想

- ・学級通信、まだ、どのような内容にしていきたいか固まらないですが、「生徒たちが何回も見返すような魅力あるもの」をつくりたいです。
- ・学級通信の内容を考えるにあたり、自分のこと、一学期の流れ、クラスの目標をしっかりと定めて、そのためのルールは必ず決めておきたいと思った。
- ・どんなことを書こうか、あまり決まっていませんが、とにかく見やすいように作ろうと思います。
- ・生徒だけでなく、保護者へのメッセージを考える中で、生徒だけでなく保護者の立場に立つことも大切だと思います。

※相互評価の回については時間が不足したため感想はなし。

7. おわりに

教職実践演習を担当させていただくにあたり、筆者がもっとも意識したことは「実践」という言葉である。すでに教育実習を終えている学生に対して、総仕上げの実践演習をするならば、筆者が日々の教師生活の中での取り組みを実際にやることや、現場で直面した課題を一緒に考えることが有効と考えて、この授業のプログラムを構成した。ケーススタディの場面設定など、まだまだ改善の余地がある。また、保護者や地域との関係などについても、今後は内容に加えていきたいと考えている。学生にとってより良い授業になるよう、現場の経験を活かして工夫を重ねたい。

初回のクラス別授業の際、筆者が学生に必ず話すことがある。「この中には先生になる人もいれば、そうでない人もいる。でも、皆さんは現場の教壇に立ち生徒と接したし、こうやってまじめに教職について考えてくれている。そういう経験のある人たちが世の中に増えてくれるのは、現場の教師である私にとっては心強い。みなさんが将来、父親や母親になったとき、自分の子どもにどう接するか。子供が学校に通いはじめたときに学校や先生をどうとらえるか。このとき、教職課程を履修したことは絶対にみなさんにとって強みになるはずだ」。

毎年、意識の高い学生が参加しており、充実した授業を展開することができている。学生の感想をいくつか挙げて、実践報告のまとめとし

たい。

学生の感想

- ・教師になってからも多くの先生の意見を聞きながら、自分の伝えたいことを明確にした教師生活を送りたいと思いました。
- ・この授業では様々な学部学科の人と意見を交換することができて面白かった。そういった考えがあったのかと感心させられることも多々あった。
- ・教職者としてどういう学級をつくりたいかという話ができよかった。このようにこれから先も教育について考えていきたい。
- ・一旦、教育のことから離れるが、その後自分に合った立場として、もう一度教師として教壇

に立って子どもたちに影響を与えたいです。いつか同じ立場として頑張りたいです。

- ・実際に教育現場に立つ先生の授業、説得力があるし、具体性がある話聞いていても場面が想像がつかます。相手の良いところをキチンと評価できるよう、もう一度家族と向き合ってみようかなと思いました。
- ・この実践演習で学んだことは、理想や理論を、いかに自分の中の「本物」にするかでした。実践演習最後の授業で先生のお話しされた「気持ちには伝わる」に通じると思います。どんなに上辺だけ良く繕っても、その中身（気持ち）は伝わる・伝わってしまうということです。中身を本物にし、強く成長させる覚悟をもって、これから教員を目指したいと思います。